

1人で学べる 生徒を育てる

文部科学省「平成25年度全国学力・学習状況調査」の結果によると、
家庭で授業の復習をする中学生の数は増加している。

しかし、学校現場の先生からは

「主体的に学びに向かう生徒を育てるのは難しい」という声は絶えない。

学校の授業だけでなく、授業外でも

生徒自身が主体的に学べるようになるには、

どうすればよいのだろうか。

中学校時代の学習の思い出

◎小学校では授業の中での調べ学習が結構ありましたが、中学校ではほとんどありませんでした。週1回でもあれば、興味の幅が広がったのではないかと思います。
(公立高校2年 黒木水月さん)

◎今振り返ると、中学校の最初で、数学の基礎をもっと頑張っておけば、ここまで数学が苦手にはならなかったのではないかと思います。また、授業でもっと教養を教えてほしかったと思います。

(私立高校3年 川原大洋さん)

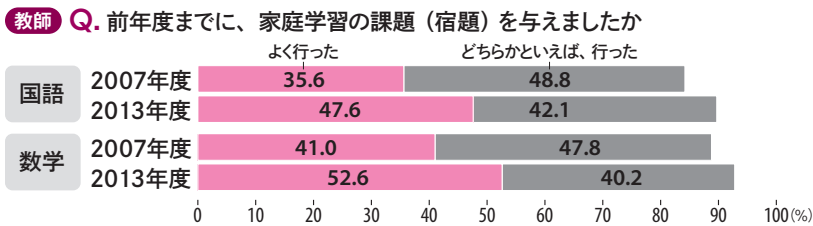
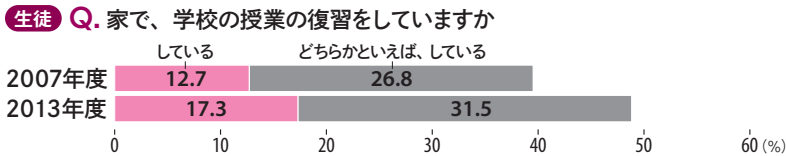
*本誌「高校生の声」(P.22～23)から抜粋

1人で学べる生徒を育てるために どのような課題があるのか

P.6から紹介する学校事例、高校生の声、研究者のインタビューを基に、その解決策のポイントをまとめた。

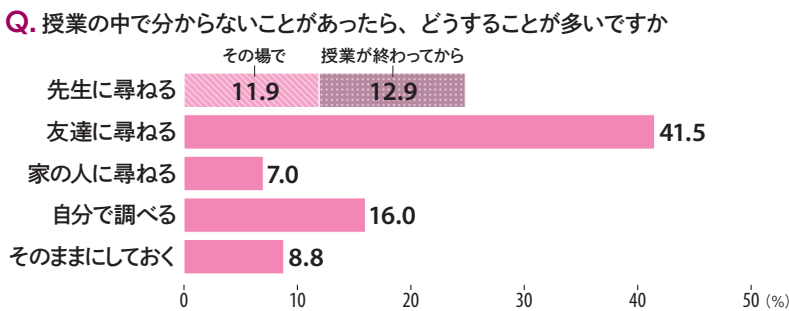
データに見る中学生の意識

図1 家庭学習の定着が着実に進んでいる



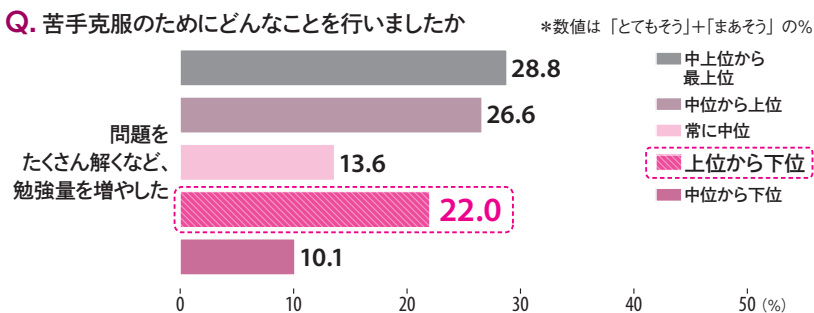
出典/文部科学省「平成25年度 全国学力・学習状況調査 報告書 質問紙調査」(2013)

図2 授業中、分からないことがあってもそのままの生徒は約9%



出典/文部科学省「平成25年度 全国学力・学習状況調査 報告書 質問紙調査」(2013)

図3 勉強量を増やしても必ずしも成績には結び付かない



出典/ベネッセ教育総合研究所「中学1年生の学習と生活に関する調査」(2012)
*上記の分類は、中学1年生1学期の成績から1年生終了時までの成績変動の自己評価によるもの

図1のとおり、家庭学習に取り組む中学生の割合は増加している。しかし、図2を見ると、授業で分からないことを「自分で調べる」と回答した中学生は16%であり、「そのままにしておく」は約9%だった。多くの中学生は、分からないことを先生に尋ねたり、友だちに聞いたりしているようだ。また、図3からは、勉強量を多くしたからといっても、必ずしも学力向上には結び付いていない実態もあることが分かる。

1人で学べる生徒を育てる

課題解決の糸口

1人で学べる生徒を育てるためには何がポイントとなるか？

各校の取り組みに見るポイント

秋田県大仙市立
西仙北中学校

▶P.6

「生徒に現実的な目標を提示して、まずは毎日机に向かうことを促す」
「生徒の意欲を刺激するような良質の問いを与えられるかがポイント」
「成績下位層の生徒には『これさえやってあげれば大丈夫』という安心感を与えること」

富山県富山市立
速星中学校

▶P.10

「学習の見通しを持たせることで、生徒と教師の信頼関係を強める」
「きちんと取り組めば何か成果につながっていくことが明確な教科ほど、生徒は主体的に学習に向かっている」

香川県多度津町立
多度津中学校

▶P.14

「Plan-Do-Seeの流れを生徒に体感させることで、行き当たりばったりではなく効果的な学習を自分でできるようにする」
「家庭学習の内容をテストに結び付けることで、自分で学習することの有用感を持たせる」

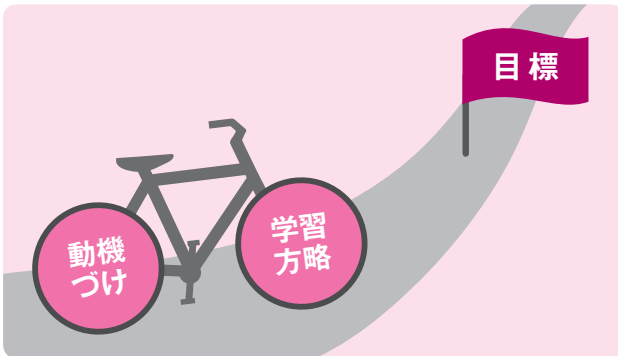
東京都鷹南学園
小・中一貫教育校

▶P.18

「(生徒同士による予想問題作成で) 良い予想問題を(生徒自身が)作ると他の生徒から褒められるので、そのうれしさを主体的学習につなげる」
「教育は人が行うもの、その『人』に地域のさまざまな方が入っていることは、子どもの学ぶ意欲を支える大きな力になっている」

学習方略の指導で学習の質を高める

1人で学ぶための3つの要素の関係



1人で学ぶためには、目標、動機づけ、学習方略の3つの要素が必要
*京都教育大・伊藤崇達准教授の示唆を踏まえ、ベネッセ教育総合研究所で作成

学習方略の具体的な内容

情意面の 学習方略

- 整理方略 … 色ペンできれいに書き込む
- 社会的方略 … 友だちと共に勉強したり相談したりする
- めりはり方略 … 遊びと勉強のめりはりをつける
- 負担軽減方略 … 得意なところから始める

認知的側面 の 学習方略

- リハーサル方略 … 何度も繰り返して覚える
- 精緻化方略 … 既知情報と関連させる
- メタ認知的方略 … 自分の間違いから教訓を引き出す
- 外的リソース方略 … 図や表を効果的に活用する

学習方略は、大きく「情意面の学習方略」と「認知的側面の学習方略」の2つに分けられる

*京都教育大・伊藤崇達准教授の示唆を踏まえ、ベネッセ教育総合研究所で作成

▶インタビュー P.24

編集部から

今号は、前号「生徒の心には火をつける」と同様に、生徒の主体性の育成をテーマとしました。

各校の取材を通じて、「1人で学べる」生徒の育成は、学校教育の最大の目標ではないかと強く感じました。また、P.4の図2に示されているとおり、授業で分からないことを、自分で調べて解決する生徒は2割に達していません。多くの生徒は、先生や友だちに尋ねながら、問題解決をしている姿が浮かび上がりました。

そうした実態を踏まえると、家庭学習も、まずは自分1人で勉強していても「1人じゃない」と感じられるような工夫をどう行うかが、「1人で学べる」生徒を育成するための鍵ではないかと考えます。

同時に、P.4の図3で示したとおり、勉強の量をこなすだけでは、必ずしも学力向上に結び付きません。一人ひとりに合った質の高い勉強方法をどう身に付けるかが、もう1つの課題ではないでしょうか。

ベネッセ教育総合研究所
情報編集室室長

小泉和義